



2022年3月13日 (第206号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
飽くことなく与え続け
てください。
残り物ではないけません。
痛みを感じるまでに、
自分が傷つく程に与え
尽くしてください。

平和を取り戻すために

4つの回心について黙想を

世界中が危惧していた中、ロシアはウクライナの首都キエフを攻撃しました。世界中が、それは遠くの国の出来事ではないことを感じています。私たちは今後の成り行きを見守り、祈りの連鎖によって悪の連鎖を断ち切りたいと願っています。

改めて、平和とは単に戦争や紛争がない時の事ではなく、「神の望まれる秩序が保たれ、確立されることである」との言葉を黙想したいと思います。教皇フランシスコの回勅「ラウター・シ」(あなたは称えられますように)から思いを巡らせたいと思います。

このメッセージでは平和を取り戻すための課題として、私たちの生き方、新しい生き方のために「4つの回心」が強調されています。

- ①神とのかかわりの回心
- ②自然とのかかわりの回心
- ③他者とのかかわりの回心
- ④自己とのかかわりの回心

①神とのかかわりの回心
聖書における基本原則は「私たちは神から創造された被造物」であることの理解と受け入れです。人は創ら

ホットにインフラットし、いったんそれを埋め込まれた口ポットは、壊れるまで憎しみの相手を攻撃する構造となつていきます。これらの武器開発には「ルール」がないのが現状です。人間のあらゆるレベルの中で、誠実に良心的な責任ある判断と行動、理性が必要とされています。

改めて、ヨハネ福音書を黙想したいと思います。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してききました。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっていますように、あなたがたもわたしの愛にとどまっていますことなる。これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあ

り、あなたがたの喜びが満たされるためである。(ヨハネ福音書15:9)

使徒ヨハネ 松永洋司神父 帰天



高松教区司祭使徒ヨハネ松永洋司神父(79歳)は、2月6日午後、急に意識を失われ坂出市立病院に緊急入院されました。午後5時12分、上部消化管出血のため、帰天されました。2月9日、東讃・西讃ブロック司祭団

【使徒ヨハネ 松永洋司神父の略歴】

- 1942年 3月21日 長崎県平戸市紐差町で生まれる
- 1967年 7月 9日 カトリック桜町教会で司祭叙階
- 1968年 4月 カトリック三本松教会助任
- 1969年~1972年 カトリック高松番町教会助任
- 1972年~1996年 カトリック江ノ口教会主任
- 1996年~1999年 カトリック三本松教会主任
- 1999年~2022年 カトリック高松番町教会主任
- 2000年~2010年 長尾聖母幼稚園園長兼任
- 2012年~2018年 高松聖母幼稚園園長兼任
- 2022年 2月 6日 帰天 (79歳)

司式、番町教会信徒代表参列により葬儀ミサ・告別式が行われました。(2、3ページに追悼文)

はばたき

いつ天に召されても不思議ない齢となった。私はいつのような形で死ぬのだろう。知ることはできない。お任せするしかない。

私に、よれよれ字のメモを渡した。「天国」「マリア様」「ところへ行く」と辛うじて判読できた。

死の前日、妻は何人かのお世話になった人へ電話した。「私は間もなく死にます。ありがとうございました」そして相手の名前を連呼した。一通りお礼の電話を終えたら妻は喘いだ。

苦痛の中で妻が息絶えたと、私たちは誰も泣かなかつた。お母さん、よかったね。姉は無意識の中で苦しみをなく召された。妻は最期の間際まで明瞭な意識をもって苦しんだ。私も選べるなら苦しんでも最後まで意識を持っていたい。

松永洋司神父様

どうぞ安らかに 感謝を込めて

松永神父様の遺徳を偲んで

八木和彦

2月7日の夕方、松永神父様がお亡くなりになったことを知り、驚きました。ここ二十数年はお目にかかることもありませんでした。私の中では常に「万年青年」のイメージがあったからです。

私は、高校1年生であった1974年から、芦屋の中学校に勤めていた1983年まで、高知の博愛園や大島青松園での「いばらの冠」ワークキャンプで、松永神父様には毎年お世話になりました。

いつも飾りなく飄々として、説教くさいところの全くない希有な人でした。私の方を力を入れずにお話していただける優しい人でした。

青年、壮年期の25年間の思い出

江ノ口教会 宮本匡士

(画家・徳島市在住)

大島青松園での草刈り作業の合間だったか、松永神父様と立ち話をしたときのことか、思い出されます。「感性によって神様を捉えること」についてであったように思います。松永神父様が「〇〇さん(大島教会の信者さん)がこの間、御ミサも信仰も芸術でなければいけないと言ったよ。」と言われたのを近くで聞いていた仲間が、「そうではない、いけいけいけい」と質問してこられました。「いやそれは個人的な見解で……。」と、松永神父様と私が同時に答えたことが、なんだかおかしくほのぼのと、心に残っています。なんでもないことですが、

松永神父様の謙虚さ、自由さ、ふところの深さを伝える好例とも言えるのではないのでしょうか。

神様への信仰というものは、常に命をかけて追求しなければ、たちどころに形骸化、観念化して心の壁を作ってしまう。「聖霊の神殿」たる隣人の真の姿を見ることができなくなってしまう。往々にしてそれが、相手に自分の観念を押しつけてしまう「説教くささ」としてにじみ出してしまいます。

松永神父様はそんなところの微塵もない、希有な人でした。神様が常にそうであるように、いつもすぐそこにいてくれて、心の中で話しかけたらすぐ答えてくれそうな気がしています。

松永神父様、本当にありがとうございました。

出会いは、1971年、第1回いばらの冠(教区カトリック高校生会)のワークキャンプのスタッフとして私、田中さんと松永さんは徳島県東祖谷で初めて顔をあわせた。企画進行係、実践鼓舞係、個別支援係が自然と決まり、以後ボランティア、交流典礼、祈り聖書も適材担当し、12名が武田さんの土佐山田、博愛園、春の合宿、高松の大島青松園、中学生キャンプと拡大し、私と田中さんは途中で卒業したが、1992年まで21回続きました。多くの高校生とその友達は青春の一頁に、私と同じようにキャンプ地に溶けこんだ風貌の彼を見ることができた。

1972年松永さんは新本町教会へ、信徒は活発で教会学校では、教区教師会をリードする田井さん、シスターが、大島青松園訪問では、成井さんが、浦上四番崩れの跡のある赤岡までの歩こう会や横島遠足では、鶴見さん、青木さんが、1984年和風ファミリーレストラン外観の聖堂建築では、永



2008年 南川ファミリーキャンプ



1974年 博愛園ワークキャンプ

野さん、松岡さん、安藤さんが(この時から江ノ口教会となる)、8年間の九州巡礼では、山崎さんが、又、原田さんによるチャペルコンサート、太田道子さんによる旧約聖書講座、幼稚園保護者による聖書研究、初金のシャロームの集いでは村上さんが、うどん交流会では山下さんが、祭日や行事の後での一次、二次会では、女性の皆さんが塩梅する。不思議ですが、写真を見るといつも真ん中に笑顔の松永さんが写っています。主日の説教は得意でないようですが、皆を引き付ける力がありました。

私は教会の隣の聖園天使園(当時は幼児と女子児童主体で、職員も男性は私一人)に就職。松永さんはよくベビーホームの赤ちゃんを保育に代わって抱いていました。信徒も週末里親や運動会の父親代わりをしました。幼児は「かみながしんパパ」と呼んで慕っており、小、中学生になっても教会学校、行事に参加しました。

天国でも、マリアさんに代わって抱っこしてあげてください。

松永洋司神父様へ

番町教会 八尾憲治

松永洋司神父様が亡くなられて、早くも2週間となります。教会に、そしてポイスカウト高松第9団の団委員長もしていただいておりましたのに、大変残念でなりません。

私が初めて松永神父様とお会いしたのは、1969年(昭和44年)に番町教会に赴任

してこられた時でした。私は高校生で、夏休みの三本松教会の錬成会にも、リーダーとして一緒に活動していました。その時はすでにあのトレッドマークの長い髪の毛はぼさ頭でした。それから大学に入ったときに、高知の博愛園で開催された「いばらの冠」に参加すると、高知の教会に赴任しておられた松永神父様も来られていて、大変懐かしかったです。相変わらず、髪はぼさぼさで、Tシャツにぼろスボンといった神父様のいで立ちはなかつたのですが、親しみやすいのか園の子供たちにはすごく懐かれていました。その後のいばらの冠の活動でも、いろいろとお世話になりました。

1999年(平成11年)に、再度番町教会に赴任してこられたのですが、ただ、声が小さくて、ミサの説教などはなかなか聞かえませんでした。そこで、私が広報部になったときに、広報誌に説教を載せてほしいと松永神父様に説教の内容を文書で頂いたりしていました。また、池田神父様に代わって、2012年(平成24年)から団委員長を引き受けてくださり、団会議にも積極的に参加され、また、キャンプや普段の活動も積極的に見に来て頂きました。

昨年、私が病気で入院した時に、同じ病院に入院して来られたので、毎日リハビリでお会いしたり、お見舞いに行ったりしていました。お会いすると、いつも私のことを心配してくださいました。どうか、心静かにお休みくださいませ。

穏やかなあたたかさをずっと忘れません

丸亀教会 立浪嘉郎

松永神父様が御帰天されたこと聞き、過去の出来事に思いを馳せた。神父様と私の接点は私が高校生の時、神父様が青少年司牧担当をされていた時でした。

高校生の合宿や「いばらの冠」の活動、ワークキャンプでお会いしていました。神父様は「いばらの冠」の活動で発足当初(1971年)より関わって下さったそうです。私にとって、高校生時代の活動は人間性を作り上げるとも貴重な時間となりまし

た。

この場を借りて、神父様および関係者の皆様に感謝を申し上げます。

神父様と出会った初めましての第一印象は髪が長く、こういう神父様もいるんだなという印象でした。

神父様とのことを思い返してみると、怒った表情は思い出しには無く、いつも穏やかな表情や話し方をされていました。周りをあたたかい雰囲気をつつみ込むような神父様でした。

神父様と会えなくなるのは、寂しく残念でなりません。神父様より頂いた穏やかなあたたかさをずっと忘れません。神父様より頂いた穏やかなあたたかさを心に留め、人と接して生きたいです。

松永神父様、ありがとうございました。

松永神父様を偲んで

番町教会 河合良治

2月6日「心肺停止により坂出市民病院に緊急搬送」。岩井先生(番町信徒・医師)から連絡が入り急いで病院に駆けつけました。それから2時間後の17時過ぎ松永神父様は天国に旅立たれました。あまりにも突然の出来事で、受け入れることができませんでした。

昨年の10月、歩くことも食べることもできず入院し、苦しい検査も受け、年が明けてようやく吐き気も収まり食欲も戻り、穏やかな生活(写真2月3日マルチンめぐみ)の中で、回復への希望が見えていただけにとっても残念です。

松永神父様、「いばらの冠」(教区青少年



2022年 マルチンめぐみ

2000年 紐差教会 大聖年巡礼



司牧)の活動をありがとうございます。博愛園、大島青松園のワークキャンプを通して、キリストの名のもとに集まる楽しさを、多くの高校生・青年が体験し、OBには司祭、修道士、シスターの召命があり、福祉関係の仕事に就く人達も多く、また現在の小教区の中心的な使徒職活動を担う方が大勢います。

神父様、アウトドアが結構好きでした。教会学校の子ども達との巡礼、2000年の大聖年には長崎に行こうと紐差、田平を案内してくださり、隠れキリシタン、根獅子浜の殉教の話の子供たちは真剣に聞いていました(写真2000年大聖年紐差)。その後も小豆島、中村四万十川キャンプなど楽しい思い出がたくさんあります。

子供たちが大好きで、幼稚園ではスポンが汚れるのに子供たちのでんぐり返しを何回もしていました。新本町教会を訪ねた時「僕の至福の時だよ」と言っていました。たくさんの子ども達が顔を撫でてもらいハグしてもらいました。

神父さんはローマの巡礼への誘いを何度も断ってましたね。鉄が空を飛ぶのは信じられないと……。また、携帯電話も最後まで持ちませんでしたね。必要なら神様の時があるよ……。

様々な事が思い出されます。突然で早すぎる死は無念ですが、晩年の闘病生活が苦しかった分、天国ではどうぞ好きな音楽を聴きながら読書をゆっくりと楽しんでください。

飛行機も、携帯電話も必要ありませんからね。

松永神父様から頂いたもの

中島町教会 東 道代

松永神父様は、今年1月に坂出の施設に入居され、食欲もあり穏やかに過ごされているとお聞きしたので、お手紙を出しました。それが亡くなられる1週間前のことです。神父様はこれからシスター方に見守られ、安心できる毎日をご過ごされると思っていたので、高松の友人から神父様帰天の知らせを受けた時は驚きました。お手紙に希望、再会を綴ったことが、何か空しく悔しくてたまりませんでした。

松永神父様との親交は、私が丸亀教会信徒で、神父様が三本松教会へ転任されてからだと記憶しています。確か35年前、前任司祭の山下神父様のご発案で、三本松教会と丸亀教会が兄弟姉妹教会として交流し、男性だけの黙想会を持ったり、ルルドのマリア像を造ったりしました。その縁でルルド祭のおどんのお手伝いに行った折、神父様と初めてお会いしました。

数年して、私が深い悲しみの中にある時、お会いするとハグして下さいました。それは思いもかけないことでしたが、神父様の優しさが伝わりました。私の心を慮って、慰め力つけて下さるうとしたのだと思います。私の頼りなさや信仰心の弱さを心配されたかも知れません。今も癒やされる出来事です。

20年ほど前には高知に転居しましたが、数年後、神父様が信徒の皆さんと江ノ口の天使園にうどん奉仕に来られる事になり、毎年お会いでき喜びとなりました。いつかお会いしても、白髪ボブの風貌の、人を威圧しない、自在しておられる姿はお変わりありませんでした。

松永神父様は、いつも私の言葉を静かに受け止めて、静かに聖霊の力を与えて下さいました。それは、気持ちに添った一言一言であり、私の信仰の救いに繋がるものでした。神父様の「そお。」という返事が聞けなくなり淋しいです。

松永神父様の信仰への強い信念を讃美し、いつも見守って下さったことに感謝して、お祈りします。松永神父様、主のみもとで安らかにお願い下さる。

松永神父様の思い出

番町教会 田本真喜子

松永神父様の事を思い出すと子供たちと共にいるお姿が目につかびます。

子供たちとハイタッチをしたり、手を握ってピョンピョンさせたり、抱きしめたりと、いつも子供たちを慈しんでいらっしやいました。

泣きやまない赤ちゃんを神父様が抱かれ、と泣きやむという特技、これは高知での天使園の経験が活かされるとおっしゃいましたが。

神父様はいつもポケットにくるみの実を持っておられて、子供に必要な時はそれを取り出して駒のようにまわして共に楽しんでました。

幼子のようにならなければ天の国には入れないという御言葉がありますが、子供たちといふときの神父様の笑顔は最高の笑顔でしたね。

江ノ口教会に隣接されていた天使園、長尾、高松聖母幼稚園、ここで神父様と出会った子供たちは、言葉など必要なく神父様の愛を体感して受けとめられたことと思います。

それから神父様がお好きな栗林公園の散歩。四季折々の花と木々を親しまれて梅の花はとも愛されたお花のようでした。

もうすぐ春が来ようとしているこの季節、梅の開花と共に帰天された神父様。私たちが希望の中に生きるようにと誘ってくださいているように感じます。

「神父様」って声をおかけしたら「ハイ」とやわらかな優しいお声は今も聞こえています。松永神父様 みんなにいっぱい愛をありがとうございました。合掌。



2005年 織町教会 26 聖人巡礼

松永神父様を偲んで

番町教会 田中友子

松永神父様が亡くなられたこと、今だに信じがたい気がします。

番町教会に主任司祭として来られ、二十数年が経ちます。その間、私達をお導き下さり本当にありがとうございました。

私は信徒として、又、幼稚園の一職員として神父様の近くでいることができました。暑い日も、寒い日も、冬はしもやけに悩まされながら、登園する園児達を、ハイタッチでお迎えしていたお姿が思い出されます。

チャプレンとして園児たちや先生方と関わってくださったことは、カトリック幼稚園として、先生方も心強かったと思います。

神父様は園児たちとのふれあひも大切にされ、スポンが泥だらけになるのも気になさらず、子供たちのでんぐり返しに、何度でも何度でも応じられていました。

神父様の周りには、いつも子供たちの笑顔があり、神父様のお話を（声が小さいのも愛嬌？）一生懸命聞いていました。もともとと神父様のことなど聞かせてもらいたかったです。

神父様は神父様を自身の道具としてお選びになりました。神父様はその召命に生涯を捧げ、いつも柔和な態度と微笑みを絶やさず、私達に接してくださいました。

これからは神様ののみもとで永遠の安らぎのうちに、私達を見守ってくださいますように。

深い愛は私の中で生きています

丸亀教会 立浪智代

私が松永神父様と出会ったのは、高知へ引っ越しをしてきて、江ノ口教会で小学校1年の時でした。その頃、家から車で1時間半かけて教会まで来ていました。しかし私はミサに出ることは少なく、ミサが終わるまで近くの公園で遊んだり、車の中で過ごしていました。

松永神父様は、そんな私や兄弟たちに、いつも笑顔で声をかけて下さり、「よく来たね。」と頭をなでてくれたことを思い出します。ミサに出ていないのに、「よく来たね。」と言われて、恥ずかしいと戸惑いながらも、うれいような不思議な気持ちになりました。

それからも、教会へは行ったり行かなかったりの子ども時代でしたが、青年会に参加するようにになると、仲間と食事会やキャンプ、祈りを通して自分のできることは何か考えるようになりました。仲間との楽しい思い出もできました。

松永神父様がかけて下さった深い愛は、今でも私の中で生きています。本当にありがとうございました。

四旬節の分かち合いでは、「このようにあなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、（ローマ書6・11）とはどういう意味ですか？」という質問が出て、神父様に電話すると、次のように教えて下さいました。

「つまり、洗礼の恵みをいただくということは、罪から切り離され、新しい生命にいられたということ。私たちは、もうすでに新しいいのちに生かされているんだよ。これは大きな恵み。でも、人間は弱い。すぐにこの恵みを忘れて、迷い、道を失ってしまう。だから、教会がある。」

神父様は、早くから第二バチカン公会議の息吹、変化を感じていたと言われている。ふり返ると、この2年間はその風に吹かれていたのかもしれない。それは、信徒もキリストと深くつながり、神父様方と共に切り開いていくということだったんです。

私たちがじっと見て下さっていた

小島島教会 日向育子



2021年 小島島教会 復活祭

松永神父様、2020年から2年足らずでしたが、番町教会との兼任として司牧して下さり、本当にありがとうございました。離島で、何かあったらどうしようかと不安がる信徒たちに、「ギリシヤンに戻ったと思ったらいいんだよ。葬儀も自分たちで出せるよ。」と、軽く笑って言われました。そして聖体奉仕者、集会祭儀への取り組みが始まりました。

そして今思い返して、神父様の視線にきづいたのです。信徒使徒職の養成が始まる時、私たちは、「養成」という流れに放り込まれました。でも、その中であっぴゅあっぴゅしながら泳いでいる私達を、神父様はじっと見て下さっていたのです。

集会祭儀の前に、司式書に書かれている「勧めのこぼし」を送ってほしいと電話でお願ひしたことがありました。しかし、神父様は、「ふぐん」とため息を漏らして沈黙され、ポツリと、「分かち合いで、みことばを

じっくり黙想すること。」と言われました。その時、ホッとしたのです。マニュアルから解放されて、「まず、福音を味わったらいんだ」と思えたのです。オルガンの伴奏者として拝領者の一番前に立って、通り過ぎて、立てなくて並べない高齢者の所に行かれました。一番大切な優先順位を教えてくださいました。

四旬節の分かち合いでは、「このようにあなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、（ローマ書6・11）とはどういう意味ですか？」という質問が出て、神父様に電話すると、次のように教えて下さいました。

「つまり、洗礼の恵みをいただくということは、罪から切り離され、新しい生命にいられたということ。私たちは、もうすでに新しいいのちに生かされているんだよ。これは大きな恵み。でも、人間は弱い。すぐにこの恵みを忘れて、迷い、道を失ってしまう。だから、教会がある。」

神父様は、早くから第二バチカン公会議の息吹、変化を感じていたと言われている。ふり返ると、この2年間はその風に吹かれていたのかもしれない。それは、信徒もキリストと深くつながり、神父様方と共に切り開いていくということだったんです。

ある人が大きな悩みを抱えている時、松永神父さんのところに相談に行きました。そこから帰ってきた時、その人の深刻な顔が晴れ晴れとした顔に変わっていました。しっかりと悩みを聞いてくれたのでしょうか。ご自身が語る代わりに、よく話を聞いてくれました。神父さんの姿を見つけると、今日はこんな話をしよう、あんな話を聞いてもらおう、とよく思ったものでした。

そんな口数の少ない神父さんでしたが、意気揚々と語るときがありました。それは、たいがいギリシヤン史についてでした。私がブラザーということで、フランシスコ・ザビエルから直接洗礼を受けたロレンソ了齋（りょうさい）修道士のことを調べてみたらい、この人が日本にキリスト教を

小さな声で大きな愛を語る人

ブラザー 八木信彦

ある人が大きな悩みを抱えている時、松永神父さんのところに相談に行きました。そこから帰ってきた時、その人の深刻な顔が晴れ晴れとした顔に変わっていました。しっかりと悩みを聞いてくれたのでしょうか。ご自身が語る代わりに、よく話を聞いてくれました。神父さんの姿を見つけると、今日はこんな話をしよう、あんな話を聞いてもらおう、とよく思ったものでした。

そんな口数の少ない神父さんでしたが、意気揚々と語るときがありました。それは、たいがいギリシヤン史についてでした。私がブラザーということで、フランシスコ・ザビエルから直接洗礼を受けたロレンソ了齋（りょうさい）修道士のことを調べてみたらい、この人が日本にキリスト教を

葬儀ミサに参加できなかったもので、この原稿を書くにあたり、松永神父さんに思いを馳せるときが持ったことを感謝しています。生前と同じように、今も私達を見守り、そっと寄り添ってくれている。真に永遠の命を執行しておられるのでしようね。

飛行機、お酒、カラオケが苦手、どちらかといえば静かな存在でしたが、いてくれるだけでうれしいその存在感は大きなものでした。お目にかかるだけで安堵感、安心感を感じていました。言葉にならない言葉で、神さまの愛を示しているようでした。得意なこともありました。川辺の石投げ、水切り（石切り、跳ね石）で、何回投げても跳ね回数が7回を降ることがありませんでした。

1976年 博愛園ワークキャンプ



下駄をはいた神父さんが、高知・江ノ口教会に隣接するペーパーホームの赤ちゃんを抱っこして、教会敷地内を歩いている姿をよく見かけました。その赤ちゃんは幸せそうに安心して身を神父さんに委ねていました。

飛行機、お酒、カラオケが苦手、どちらかといえば静かな存在でしたが、いてくれるだけでうれしいその存在感は大きなものでした。お目にかかるだけで安堵感、安心感を感じていました。言葉にならない言葉で、神さまの愛を示しているようでした。得意なこともありました。川辺の石投げ、水切り（石切り、跳ね石）で、何回投げても跳ね回数が7回を降ることがありませんでした。

説教等で小さな声でフツフツと語ることはとても有名ですが、その内容は非常に大きな神さまの愛を語っていました。

このように松永神父さんは、「無名なこと有名な人」「目立たないことで目立つ人」「小さな声で大きな愛を語る人」「語らないことで語る（大切なことを示す）人」でした。

葬儀ミサに参加できなかったもので、この原稿を書くにあたり、松永神父さんに思いを馳せるときが持ったことを感謝しています。生前と同じように、今も私達を見守り、そっと寄り添ってくれている。真に永遠の命を執行しておられるのでしようね。

飛行機、お酒、カラオケが苦手、どちらかといえば静かな存在でしたが、いてくれるだけでうれしいその存在感は大きなものでした。お目にかかるだけで安堵感、安心感を感じていました。言葉にならない言葉で、神さまの愛を示しているようでした。得意なこともありました。川辺の石投げ、水切り（石切り、跳ね石）で、何回投げても跳ね回数が7回を降ることがありませんでした。

説教等で小さな声でフツフツと語ることはとても有名ですが、その内容は非常に大きな神さまの愛を語っていました。

このように松永神父さんは、「無名なこと有名な人」「目立たないことで目立つ人」「小さな声で大きな愛を語る人」「語らないことで語る（大切なことを示す）人」でした。

葬儀ミサに参加できなかったもので、この原稿を書くにあたり、松永神父さんに思いを馳せるときが持ったことを感謝しています。生前と同じように、今も私達を見守り、そっと寄り添ってくれている。真に永遠の命を執行しておられるのでしようね。

地区・ブロックの話題

西讃ブロック

山あいの小さな教会から

池田教会 住吉才子

昨年の12月26日(日)午後1時から、池田教会でクリスマスミサとクリスマス会がありました。小雪がちらつくなか、二十数名が心温まるクリスマスをお祝いすることができました。ミサの中で、きよしこの夜(サイレントナイト)を日本語、英語、スペイン語で歌いました。クリスマス会では、ケーキや手作りの料理、フィリピン料理などをいただきました。子供たちは、シスターとゲーム遊びを楽しみました。

一方で、毎週欠かさずミサに与かる方、空いた時間にとそり御聖堂の掃除をしてくれる方、ポツンと一軒家のような山中からミサに来られるおばあちゃん、お祝いの時は、いつもおいしいパウンドケーキやお赤飯を作ってくれる方、鳥の唐揚げ、春巻の得意な方、庭の草抜き、花植えをしてくれる方、こんな人々の顔が浮かびます。

山あいの小さな教会での祈りが心あたたまる恵み豊かなものでありますように。神に感謝。



シノドスは質問の「答え」を求めているわけではありません。テーマについて話し合うことによって、「旅する教会」が、新しい姿へと刷新されることを望んでいます。

◇教区スケジュール◇

- 3月 2日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中) 6日(日) 四旬節第1主日 13日(日) 四旬節第2主日 17日(木) 日本の信徒発見の聖母 18日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日 19日(土) 聖ヨセフ 20日(日) 四旬節第3主日 21日(月) 春分の日 23日(水) 経済問題評議会 13:30~ 24日(木) 責任役員会 13:30~ 27日(日) 四旬節第4主日

- 4月 3日(日) 四旬節第5主日 4日(金) 山下樁師命日 10日(日) 四旬節第6主日 14日(木) 聖木曜日(主の晩さん) 15日(金) 聖金曜日(主の受難) 16日(土) 聖土曜日 17日(日) 復活の主日 24日(日) 復活節第2主日 29日(金) 聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士 昭和の日

愛媛地区

宇和島教会 創立一〇〇周年記念ミサ 使徒ヨハネ諏訪教区長司式

2021年11月20日土曜日10時から宇和島市のカトリック宇和島教会において、創立百周年記念ミサが、使徒ヨハネ諏訪教区長司式のもとで行われた。共同司式は、ドミニコ会ロザリオ学園理事長ファン・マヌエル神父、愛媛地区長川上栄治神父、歴代



主任司祭のホルヘ・ソーザ神父、ヨゼフ郷文成神父、担当のアシジのフランシスコ申繁の時神父が参加された。信者は、コロナ禍のため南予ブロックのみの参加者であった。四国での宣教は1882年高知から始まり、同年宇和島に宣教師が到着してから始まった。その22年後の1904年には、ローマ法王庁が「四国使徒座知牧区」として大阪教区から独立させ、その宣教はドミニコ会が担当した。それから2017年3月まで、宇和島教会はドミニコ会の宣教の恩恵を受けた。

宇和島教会の初代聖堂は1913年にドミニコ会が織物業者の家土地を購入し、そこに1921年11月にフィリピンのロザリオ管区が聖ドミニコの帰天記念として献堂したものであった。現在の聖堂は3代目にあたり、祭壇正面の壁画がドミニコ会アルベルト・カルペンティール師の手になる独特の雰囲気特徴的である。

今年の記念事業は、記念ミサのほか、記念講演会や記念

祝賀会が計画されたが、コロナ禍終息の見えない状況を勘案し、記念すべき年にミサを挙行することを決めた。この宇和島教会は、2人の司教と多くの修道女らに召命の恵みを頂いた。このミサの司式において、諏訪司教は、信者らの祈りが、信仰の恵みを頂いたことへの感謝と受け継ぐ決意を新たにすることに触れ、次の時代への新しい心への導きを促された。

秋田の聖母と殉教の歴史 田端恵美子著を読んで 丸亀教会 太田 脩 1984年調査の結果、当時新潟教区長伊藤庄治司教により認められ、教皇ベネディクト16世によって正式に受理された。ローマ教皇フランシスコは2013年信仰年の催しとして、ポルトガルのファチマ大聖堂からファチマの聖母像を空輸でパチカンにお迎えし、世界各国から選ばれた名だたる10カ所の大聖堂を宇宙衛星で繋いで祈る「聖母に捧げるロザリオの徹夜の祈り」を開催しその光景を全世界へ同時放映したのでした。「秋田の聖母聖堂」を巡礼所として招いて下さり有名な

なりました。秋田の聖母像に関する一連の不思議な出来事の中には、御像の右手より血が流れる、芳香を放つ、聖母像の目から人間の涙の様に水が流れる。1975年1月4日、1981年9月15日の悲しみの聖母の祝日まで101回にわたって流れました。田端恵美子さんは、この本を書くに当たりどうして秋田なのか?聖母はなぜ秋田を選ばれたのか?歴史を調べた結果、「久保田城外の大殉教草津津川の悲劇」で豊臣秀吉、徳川家康の時代に切支丹迫害は益々強くなり、され天の御言葉が伝えられた事を感じました。このコロナ禍が終息し、落ち着いたらゆくりと秋田に巡礼に行き、是非この地を訪ねたいと思っています。

2022年度 高松教区 地区/ブロック 宣教司牧担当者

高松教区の宣教ビジョン

宣教司牧は「協力宣教司牧」とする。よって任命は地区・ブロックへの任命とする。司祭助祭のみならず信徒の相互の協力をもって地区ブロック信仰共同体を構築する。併設されている「幼稚園・こども園」施設等は福音宣教の重要な場として位置づける。

Table with columns: 地区ブロック, 教会, 司牧担当者, 協力司祭, チャプレン. Rows include 東讃B, 西讃B, 徳島地区, 愛媛地区, 高知地区.

◎ は地区・ブロック長

カンバラ神父・(バカンス) 池田義高神父・引退